

ふくしの視点を備えた保育者を養成しています。保育・幼児教育の理論や方法とともに、子どもの貧困、虐待、障害などの福祉的課題についても深く学び、子どもや保護者の多様なニーズに対応できる力を養います。

現代っ子の成長にも 自然が必要？

東内 瑠里子准教授
専門分野：教育学

授業やゼミを通して、自然や生き物に触れる体験活動を行う東内先生。
デジタル化が進み、スマートフォンの動画やゲームを楽しむ子どもたちも少なくない中、
幼少期に自然環境の中で学ぶことの大切さについて伺いました。



子どもたちは自然の中で育つ。

保育・幼児教育の ゲンザイ

子どもたちを取り巻く環境は時代とともに変化しています。現代では小学校から一人一台PC端末を持つほど、デジタル化が進んでいます。しかし、私はデジタルよりも自然こそ、子どもたちの成長にとって欠かせないのだと考え、自然保育や生活体験を重視した授業や活動を行っています。中でも「森のようちえん」では、ゼミの学生が中心となり、地域の親子を対象に、自然や生き物に触れる体験活動を行っています（※現在は新型コロナウイルスの影響により休止）。参加された保護者の方からは、これまで消極的だった子どもがさまざまなことに興味を持つてのびのび活動するなど見違えるようになった、と反響が寄せられています。

環境問題に楽しみながら向き合う力を。

保育・幼児教育の ミライ

自然の中で育つのは子どもだけではありません。子育てにおいて親世代に焦点が当たったことは少ないのですが、実は親の発達もとても重要な課題です。私も2児の母として子育て中ですので、今は親も一緒に育つ時代。今後は保護者向けの体験プログラムも企画し、自然環境や子育てについて親が学べる場をつくりたいと考えています。また、SDGsの開発目標にあるように、現代は自然環境も含めて課題が山積みです。子どもたちは私たち大人が残した課題を背負って生きていかなければならない世代。ですが、あまり深刻に考えすぎず、楽しみながら前向きに課題と向き合う心を持ってほしいと思います。幼少期の頃からたくさん自然に触れて、自然の価値に気づくことはその第一歩になるはずです。

自然の大きさを楽しく伝えるために。

授業紹介

「生活と環境（保育内容C）」

地域の環境を活かした保育について、大学周辺での自然体験を通して学びます。ある日の講義では浜辺で拾った海洋ゴミを使って、作品づくりに取り組みました。子どもの好奇心や探究心を尊重した指導法を、体験的に理解します。



保育・幼児教育専修 Q&A

Q 日福で保育を学ぶ魅力は？

福祉に触れる機会が多く、さまざまな人々のことを深く考える力が身につきます。これは保育現場にも欠かせない力です。

Q 保育・幼児教育専修は どんな人におすすめ？

保育に大切なのは学力だけではなく人間性。学校の成績では測れない、いろんな興味関心を持った人集まってほしいと思います。

Q 保育園・幼稚園以外に、 学びを活かせる場所は？

親と子への接し方などのノウハウを活かし、ファミリー層を狙うホテルへの就職をめざす学生もいます。そんな学びを活かせば活躍の場はたくさんあります。

自分の興味関心が人生の支えになる。

自分が興味を持ったことを大切にしてください。どんな困難があっても楽しみがあれば息抜きができるし、それが仕事につながれば幸せな人生になると思います。何をしているときに自分がいきいきするのを探求してみてください。

東内先生の
ヒトコト



先生の趣味：パンづくり
現在1歳と3歳の子どもの子育てに奮闘中。子育ての合間に楽しみにしているのがパンづくりです。くるみパンや総菜パン、シフォンケーキにも挑戦。子どもたちが私のつくったパンを食べる日を楽しみにしています。